

18歳はおとなとします。

2022年4月から、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。
 今回の改正は、およそ140年ぶりなのだから。
 思い返せば、18歳に選挙権が与えられるようになった2016年からもう6年。国際的には、18歳成年とされている国が多く、むしろ日本は遅れての改正となりました。
 そういえば、日本が1994年に批准した「子どもの権利条約」のなかでも、子どもは0歳から18歳まで、と定義されています。

なにが変わるのかというと。
 「親の同意を求められることがなくなる」というところが最大の変化でしょう。
 スマホや賃貸物件、クレジットカード、ローンなど、未成年のうち親の同意がなければ叶わなかった契約が、自分の意志だけでできるようになります。
 それは同時に、守られることもなくなるということ。
 今回の改正でなにより問題とされているのは、様々な消費者トラブルに巻き込まれる可能性が高くなるのではないかと

という点です。
 未成年者であれば、親の同意なしに契約することはできません。万が一、契約してしまった場合でも、「未成年者取消権」という法律によって、契約を取り消すことができるのです。
 知らないうちに、いろんな形で守られていたのです。

そのほかの変更点としては、「親権に服さなくなる」ということから、進路や住むところなども、自分で決めることができるようになります。さまざまな国家資格の取得も可能になります。
 そして、女性の結婚できる年齢は、これまでの16歳から18歳に引き上げられます。

さて、これから18歳になるみなさん。おとなへの階段が、すこし低くなりました。
 このままおとなになっちゃって大丈夫？
 なんだか不安だなと思ったときは、まわりのおとなに相談してみましょう。なんとかおとなをやっているわたしたちにも、お役に立てることがあるかもしれません。
 お酒とたばこ、ギャンブルは、これまでどおり20歳からです。おまちがえのないように。(カキタ)

活動に賛同した企業が、寄付つき商品を通して、活動を支える仕組み。
 「支え人。」として子どもステーション山口を支えてくださる企業をご紹介します。

支え人。

防府のケーキ屋さん「メルシー」さん

店内にはいと、季節のお菓子がならび、甘い香りがお店いっぱいひろがっていました。

「おいしいお菓いで、親子の心ゆたかな時間を応援したい」というメルシーさんの思いが、「心ゆたかな子ども時代を過ごせるように」という子どもステーション山口的思いと重なる、と「支え人。」として私たちの活動を応援してくださっています。店内には募金箱も置かれ、来店されたお客様からは、「支え人。」について尋ねられることもあるそうです。「支え人。」のお話とついでに、お店の思いを伝えることができます」と笑顔ではなされています。寄付つきお菓子“おかげさま”“幸せのハト”は、舞台鑑賞会でも不定期で販売しています。

おかげさまプロジェクト
 ☆おかげさま(マドレーズ)
 ☆苺のショートケーキ
 ☆自然派プリン
 ☆幸せのハト(サブレ)
 上記商品1個につき1円を寄付

防府市官市町10-10 TEL:0835-22-6535
 営業時間/11:00~19:00(土日10:00~)
 定休日/毎週月曜日



お客様にも「支え人。」のしくみが見える形に、と店内におかれた募金箱

わすれない 3.11

新聞広告に“震災後に生まれた子どもの数1023万人”とあった。
 当時1歳だった中学生は震災は“教科書に載っている出来事”になっている、と言う。覚えていないことを現実のことと捉えるのは難しい。
 被災の跡の残らない場所で日常を送るおとなも、子どもたちと同じかもしれない。
 数年前に現地を訪れたとき、丈の長い草に覆われた家々や高く積まれた汚染土を入れたフレコンバッグ、高速道路に立つ震災後に設置されたであろう「津波時の避難者横断注意」という内容の看板を目の当たりにし、具体的な現実にはハッとした。

福島では、政府の原発処理水海洋排出の方針に、今もお漁業関係者は苦しみ、各地の原発は、今また再稼働に向けて進む。ウクライナでは、ロシア軍の原発占拠で世界中に緊張が走った。
 被災地の中でも、過去の津波を言い伝えている地区と風化していた地区では、犠牲者の数が大幅に違ったらしい。震災がテストのために覚える一文になってはならない。(クラタ)

子どもステーション山口は子どもたちが文化芸術に親しんで、心ゆたかな子ども時代を過ごせることを願って活動しています。プロの舞台芸術に出会う舞台鑑賞会のほかに、キャンプや子どもまつりなど、たくさんの仲間とついでに活動できる場をサポート。大人にも、“子どもと共に育ちあふ”学習の機会を提供しています。また各地区ブロックでは、会員が地域のつながりを大切にしながら独自の楽しい活動を行っています。

入会お待ちしております…舞台鑑賞会の入場料が無料です！
 正会員 月会費2,500円(子どもの登録OK)
 子どもの登録料(一人500円/年)
 準会員 月会費1,300円(大人だけの参加)
 賛助会員 個人会費:一口5,000円/年
 団体会費:一口10,000円/年
 ※寄付も随時、募っています。
 ※年間3,000円以上ご寄付いただいた方は確定申告により、税額控除が受けられます。

子どもステーション山口 WEBサイト

<https://kodomo-st.org>

子どもステーション山口の最新情報、さまざまな活動のレポートを紹介しています。








非営利組織の信頼性の証である「グッドガバナンス認証マーク」を山口県で初めて取得しました。(2020年12月認証)

《「支え人。」としてのご支援をいただいている企業》

■(株)メルシー ■リンドヴルム ■POLA Sweet

【子どもステーション山口の4月の会員】
 正会員121人 準会員62人 子ども登録数237人 計420人

LineUp

2022 舞台鑑賞会の予定

対象年齢 幼児児 低学年 高学年
 変更になることがあります。ご了承ください。

0さいからのピアノLIVE
 5月28日(土) **アートスタート**
 C・S赤れんが 《ピアノの魔術師》

ピアノの魔術師
 5月28日(土)
 山口市民会館 大ホール

ののほなげきじょう
 6月4日(土) **アートスタート**
 C・S赤れんが 《人形劇団ののほな》

にんぎょひめ
 6月18日(土)
 山口情報芸術センター 《to R mansion》

影絵音楽団くぶくぶ
 おひざでだっこ
 がたんごたんがたんごたん
 7月23日(土) C・S赤れんが 《想造舎》

11びきのねこ
 9月17日(土)
 山口県教育会館ホール《人形劇団クラレテ》

楽まつり(仮)
 12月16日(金)
 山口市民会館 大ホール 《田楽座》

2023

食器は歌う
 2月18日(土)
 山口県教育会館ホール 《kajii》

人形劇
 トッケビ 一兎ヶ島と呼ばれた島ー
 3月12日(日)
 山口市民会館 小ホール《人形劇団むすび座》

給食番長
 5月28日(日)
 山口市民会館 小ホール 《劇団仲間》

毎月1回いちにちプレーパーク開催

赤れんがだより
 クリエイティブ・スペース赤れんがは
 子どもステーション山口が指定管理者となっております。

8月18日(木)~28日(日) 田中米吉展(仮)

11月17日(木)~19日(土)
 公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ)

12月18日(日)チェンバロコンサート

2023年
 2月23日(木)~26日(日) 演劇祭(仮)

編集後記
 ■来年から2分の1成人式は9歳になるのかな、とふと思いました。2年短くなったことも時代、大人って長いなあ。いろんなことに不安を感じ、気持ちが悪くわくわく(ナガタ)

■関根さんのトークイベントで、「演劇は漢方薬のようなもの、いつかきつと子供の役にたちます。」といわれた。なんだか嬉しい、今のところ効果はあまり見えないけれど…。(ムラカミ)

■子が家を出て新生活。子たちの成長が、自分では選ばない世界をみせてくれるのが面白い。結婚したときもそんなことを思ったんだ。自分もスイッチの時。さて、どう生きよう。(クラタ)

■うまれたとき、1歳、3歳…と、それぞれの写真と思いで出を取られる小2の三学期。2番目まではそれなりに語れたのに、来っ子に関しては写真も記憶もさっぱり…。好きな食べ物、捏造しました。ごめん。(カキタ)

YA!

【子どもステーション山口 広報紙】
 2022年5月1日発行
 発行・認定NPO法人子どもステーション山口
 ご意見・ご感想お待ちしております。
 〒753-0047 山口市道場門前2-4-20国近ビル2F
 TEL・FAX 083-925-1486 ☒co26station@yahoo.co.jp
 OPEN 月~金10:00~17:00

YA!

あそぶ・かんじる・そだつ

vol. 110

いちにちプレーパークに出現!
 段ボールキャタビラー

2022年5月1日発行(年2回)
 発行/認定NPO法人子どもステーション山口

たちどまってミルかんがえてミル

わたしはわたし。~多様な性のあり方~ 1p

「わたしとわたし、ぼくとぼく」
 関連トークイベント 講師 関根信一さん 2p

講演会「どの子どもあそびでこんなに育つ！」 3p

講師 茂木厚子さん

18歳はおとなとします。~成年年齢引き下げ 4p

LGBTを題材に多様性について描かれた、劇団うりりこによる舞台「わたしとわたし、ぼくとぼく」



たちどまってミルかんがえてミル 第14回

ベリだから、ラクだから、みんながそうしてるから…
 そんな今を立ちどまって、いっしょに考えてみませんか？

わたしはわたし。~多様な性のあり方~

11人に1人。日本の人口の8.9パーセントがLGBTQ+だと言われています。それはちょうど左利きの人と同じくらいの割合。遠い世界の話ではありません。

LGBTQ+の人々のうち、家族や友人にカミングアウトしているのは10~30%くらい。多くの人がカミングアウトできないのです。でも、もしあなたの周りの大切な人が困っていたら、悩んでいたら…。わたしたちは何ができるのでしょうか。

LGBTQ+

- L**esbian レズビアン 女性として女性が好きになる
- G**ay ゲイ 男性として男性が好きになる
- B**isexual バイセクシュアル 「これらのほかにもさまざまなセクシュアリティがある」という意味
- T**ransgender トランスジェンダー 「身体の性」と「心の性」が一致しない人や違和感のある人
- Q**uestioning/Queer クエスチョニング/クワイア 性自認や性的指向を決められない、決めていない、迷っている人
- +** プラス

SOGIという多様な性を考える見方もあります。性的マイノリティの人だけでなく、そうでない人も含めた表現です。

SOGI

- SO** Sexual Orientation 性的指向/好きになる性
- GI** Gender Identity 性自認/心の性

SOGIに基づいて自分のセクシュアリティ(=人間の性のあり方)について少し考えてみましょう。あなたはどんな性別の人を好きになりますか？あなたの性別は何でしょう。あなたはどんなSOGIをもつのでしょうか。

それぞれのSOGI。例えば…



男性が好き。心の性は女性です。

男性が好き。心の性は男性です。

わたしのSOGIは…?

子どももおとなもそれぞれ個人のSOGIをもっています。
 男と女、だけで区別されてきたこれまでと違い、さまざまなタイプの人がいることがわかってきました。人と違うことは、おかしいこと？
 同じでないことは、ばかにされること？
 たくさんの方が、必要のない差別で苦しんできた現実を、子どもたちはどう感じているのでしょうか。時代は変わりつつあります。
 違いを受け入れ、自分もまただれかとは違う人であると知ること。
 おとなたちこそ、その無意識のなかにある意識を、変えていくべきときなのかもしれません。(ムラカミ)

2021 11月 ~ 2022 4月 **こんな舞台をみてきたよ**

こどもステーション山口の舞台鑑賞会には人形劇や舞台劇などいろんなジャンルがあります。

こどもステーション山口NPO法人化20周年記念舞台鑑賞会 赤い羽根共同募金

わたしとわたし、ぼくとぼく



劇団うりんこ
わたしとわたし、ぼくとぼく (低・高学年対象)
3月5日(土) 維新大見アリーナレクチャールーム

LGBTについて、多様性について、子どもも大人も、自分の身のまわりのこととして、立ち止まって考える機会をいただけたお芝居でした。NPO法人化20周年を記念し、会場では過去の舞台鑑賞会のポスター(一部)や、会員の寄せ書きが展示されました。

- いろいろな人がいて、いろいろな考えがあっていいんだと改めて思いました。(会員 12才)
- 性の多様性あたりまえの様に理解がすまばいよと思う。障害のある、なしも同じように。(会員 20代)



会場に展示された過去の舞台鑑賞会のポスター。どれから観た?

「わたしとわたし、ぼくとぼく」関連トークイベント

講師 関根信一さん

2月27日(日) 山口情報芸術センター スタジオB

舞台鑑賞会「わたしとわたし、ぼくとぼく」の公演に先立ち、作・演出である関根信一さんによるトークイベントが開催されました。関根さんは、ゲイをカミングアウトしている劇団フライングステージの代表でもあり、LGBTの当事者として性の多様性を描く作品を多く作りつづけています。トークイベントでは、ご自身の子ども時代のお話をお聞きました。詰襟の制服を着ることが嫌だったこと。いろんな差別的な言葉に傷つけられたこと。いじめられて不登校になったこと。男が女が決められる事への違和感があったこと。けれど、演劇との出会いを通じて関根さんは自身がゲイであることを徐々に受け入れていきます。そして劇団フライングステージの代表として活動する今に至るのです。

とり違っていない。LGBTであることで、人生の主人公になれないかもしれないと思う人たちに、そんなことはないよと伝えたい。というメッセージは特に心に残りました。

トークイベントの後半、もしも子どもにカミングアウトされたら、という質問がありました。「大事にしている秘密を打ち明けることの大変さ、そこに至るまでの気持ちに伝えること。困難だけど、人と違うことを受け止めてあげることから始めてください」と丁寧に言葉を選んで話される関根さんの姿が印象的でした。(ムラカミ)



当事者の気持ちをわかってほしい、じゃない。人はみんな違うから、同じになろうとする。でも人はひとりひ



オペラシアターこんやく座「森は生きている」



「いおり博士とこうじくんの理科室パフォーマンスショー」

「河野康弘トリオ with KikaRobin フリースタンドジャズコンサート」

「WittyLookのLife's a CIRCUS!!!!」

人形劇団むすび座 「どんどこももんちゃん/カミナリカレー」

※印は、文化庁 ARTS for the future! の助成金を得て開催しています。



いおり博士とこうじくんの理科室パフォーマンスショー

スタジオエッグス (低学年対象) ※
11月18日(木)山口県教育会館ホール

軽快なトークと楽しい実験で会場は笑いでいっぱい。ロビーには大観ブロックによるジャグリング体験コーナーもありました。

- でかいうきぼうが上までとどいたので、すごかったです。(会員男子 8才)
- 会場と一体になって、たくさん笑ってとても楽しい時間をすごすことができました。(会員女性 42才)

特別公演 砂影じいいの昔話

ホケキョ影絵芝居
12月5日(日)山口県旧県会議事堂

その日限りの砂絵で綴るおじいさんの昔話。次々と変化する絵と飄々とした語り口で、大人はクスクス、子どもは不思議そうな表情でした。

人形劇 トレテックパレード

人形劇団ココロ (高学年対象) ※
12月10日(金)山口市民会館小ホール

舞台上で命を吹き込まれた人形。でも体の部位が取れてつく「物」である人形。人形たちの不思議な世界をアコーディオンとトイ楽器の音楽で。

- セリフも面白くて、取れてつくという工夫が、ビックリで楽しかったです。(会員女子 16才)
- 少しの悲しくても世界観に共感しました。(会員 40代)

河野康弘トリオ with KikaRobin フリースタンドジャズコンサート

12月18日(土) (高学年対象) ※
山口県教育会館ホール

ピアノとベース、ドラムによるちょっぴり大人なコンサート。この日はじめてジャズに出会った子どもたちも多いのでは?

- おじさんたちちよいい。(会員女子 8才)
- 音楽も生き方もカッコ良く、あこがれます! なんだか気持ちが解放された気がします!! (女性 60代)

冬眠ピアノお目覚めコンサート

地球ハーモニー (低学年対象) ※
12月19日(日)山口市民会館小ホール

よく知っている曲もジャズに。ピアノってこんなに自由に弾いていいんだ!音楽って楽しいもの!子どもたちの中にある常識がひっくり返った?!

- 指、けんぱん、音、全てが踊っているように感じた。(5年生)
- 世界平和を願う河野さんの思い、願いの込められた演奏で、胸が熱くなりました。(30才)

特別公演 オペラ森は生きている

オペラシアターこんやく座 ※
12月27日(月)山口市民会館大ホール

年の暮れ、厚く響く歌声で、雪の森の空気に大ホールが包まれました。舞台美術も美しく、子どもも大人もロシアの冬の物語にひき込まれました。

- うたのこえがひびいてる、うたがいっぱいすごかった。(会員 1年生)
- すばらしい歌声、ハーモニー。大迫力と心にしみる歌声に心が洗われました。(会員 40代)

WittyLookのLife's a CIRCUS!!!!

チキキパーク (低・高学年対象)
2月11日(金・祝)山口市民会館大ホール

夢の国のようなテントの前で始まる一輪車サーカス。技に圧倒され、ポップな世界観に大笑い。子どもも大人も手拍子に大拍手の舞台でした。

- 5輪に乗る時、本当にどきどきしました。(会員 11才)
- 大好きなことを続けていく挑戦!! 大人の私も、元気をもらいました!(会員 40代)

人形劇 どんどこももんちゃん/カミナリカレー

人形劇団むすび座 (低学年(幼児)対象)
2月23日(水・祝)山口市民会館小ホール

ももんちゃんがかろぶと、ケラケラと小さな子どもたちの笑いがおきる。自由奔放なカミナリ坊のおはなしは、ハラハラしながら見守りました。

- カミナリがおもしろかったです。ゴロゴロってたのがおもしろかったです。ケンカするのがおもしろかったです。(4才)
- ももんちゃんかわい、声がかわい。(会員女子 8才)

講演会 「どの子どもあそびでこんなに育つ!」

講師 茂木厚子さん
10月30日(土) 山口市民会館小ホール

「プレーパークを山口に」実行委員会主催の講演会が開催されました。講師は、発達支援「Kids Sense」主宰で、子どもの発達についてのスペシャリストである茂木厚子さん。

今回の講演は、子どもたちの行動に「困った行動はありません」というお話からはじまりました。立ち歩く、暴力をふるうなど、園や学校などで「困った子」とされてしまう子どもがいます。でもその行動、おとなが「困った」と思っているだけ。実は困ったことではなく、おとなが問題視することで、問題行動になってしまう、とおっしゃいます。

行動にはその子なりの理由があります。問題行動といわれるものの裏に、実際はどんな理由がかかっているのか。多くの場合それは、さまざまな感覚が未発達であることと関係が深いと考えられます。いわゆる「困った」行動と向き合ったとき、おとながやるべきことは、子どもの行動を理解し、解決に向かう支援の方法を探ることです。

このときに、重要なポイントとなるのが遊びです。キーワードとなるのは「快」という言葉。子どもたちが自由な遊びのなかで、楽しい、快いと



感じているときに、発達が促されます。「快」の種類はひとそれぞれ。だから、その子に合った未発達な感覚を補う遊びを取り入れることで、子どもたちの行動も変化していきます。

脳の発達を促すのは、勉強ではありません。むしろ過剰な刺激や無理な教え込みからは、身につく能力は少ないそうです。

快か不快か、安心か不安か。大事なことは、このあたりにあるようです。子どもはゆっくり育つもの。まわりと違うからと、おとなのほうに不安を感じるのではなく、どう対応すればその子自身が安心するのかに目を向けて。わが子との向き合い方に、またひとつヒントをいただいたお話でした。(カキタ)

子どもたちの体験と活躍がすてき!



クリスマスパーティー

12月16日(木) 山口市男女共同参画センター

少し早いクリスマス会に小4~高3までの12名が参加しました。中高生の司会進行により「たけのこニョッキ」や「ハンカチ落とし」などのレクリエーションで盛り上がったあとは、お楽しみのプレゼント交換。どんなプレゼントが当たったかな?最後は「メリークリスマス!よ~お~、パン!(手拍子)」「よいお年を!よ~お~、パン!」の一本締めで景気づけ。

中学生グループの行事に早く参加したいなあというちびっ子たちの声もたくさん聞きます。コロナ禍で例年のような行事ができない代わりに、中学生グループは話し合い、工夫し、できることを楽しんでいきます。(ナガタ)

今年冬の Day Camp!!

1月16日(日) 千坊川砂防公園

いつもは夏に開催のキャンプ。今年は冬のデイキャンプとなりました。今回も中高生が、企画準備をすすめます。1月、大人は寒いな...と少し立ち止まるのですが、そこは、子ども。「小雨決行!」と参加者募集チラシに大きく書きました。予想的中?小雨のふる肌寒い天気の中、久々の集団遊び。メインゲームは、カレー食材獲得ゲーム「しっぽとり」。新聞のしっぽをたなびかせて走りに走って、体もすっかり温まりました。しっかり体を動かしたら、中高生の指導で、一から全て子どもたちが調理します。包丁で切ることも、薪で火をおこすことも、任されるからがんばれる貴重な体験。ここ2年、キャンプが縮小されて、参加者の経験不足は否めませんが、それでも、代々中高生から小学生に教え繋いできた形は、家庭で学ぶことはできない貴重な経験なのだと思います。



さて、みんなが持ち寄った食材は、カレーの定番に加え、こんにやく、煮卵、チーズにりんごで、キムチまで。「いい食材は、全部他のチームにとられちゃったんだよ~」なんて声もありましたが、「こんにやくがおいしかった!」と発見もありました。自分たちで作ったカレーはやっぱり美味しかったようです。

保護者からは「この2年、学校での野外宿泊活動がなくなり、飯盒炊飯など知らずに大人になっていたかもしれない。薪でご飯が炊けること、野外での調理、そういった場を知れただけでもとても良かった」という声が聞けました。(クラタ)

る・リ・フリー 2022

3月27日(日)山口県立図書館レクチャールーム
年に1度、子どもたちが集まって自由な発想で創った劇やパフォーマンスを表現する舞台が「る・リ・フリー」です。今年は5グループが出場し、うれしいことに初参加の子どもが増え、ブロック(おおよその学区)とは別に作られた合同グループも出場しました。



いろいろな地区から集まった合同グループが初参戦!

(一財)愛山青少年活動推進財団助成事業

練習中、まともな上手な上級生が不在のときは特にガヤガヤ、ザワザワ、なかなか進みません。見守る大人たちは、これがまとまるのかな?時間ももたない気が...口を出したい場面が多々あります。それでも本番が近づくとつれ、子どもたちの姿勢も変わってきました。舞台に出たくない子は小道具や裏方でがんばりました。る・リ・フリー大賞を逃したグループは「来年こそ!」と早くも意気込んでいました。「自分はこうしたい」「これならできそう」と言えたこと、人前は苦手だけど勇気を出して出演してみたこと、いろんな場面で子どもたちの成長をみることができました。形になっても、ならなくても、練習から遊び、本番までをひっくるめて「る・リ・フリー」なのですね。



中高生は、本番までのアレコレをそのまま舞台上に仕上げました。

話し合って決めた、まかせてもらえたという経験が、いつか子どもたちの何かになればいいなと思います。(ナガタ)

今年のキャッチフレーズはコレ!